

新潟大学農学部同窓会首都圏支部事務局長の佐藤純一氏から次のような報告が寄せられましたので、HPに掲載いたしました。



記念写真

■1■新潟大学首都圏農学部同窓会(第31回)総会の報告

・新潟大学農学部同窓会首都圏支部の総会を6月3日(土)に、ラウンジ日比谷(東銀座)において開催しました。出席者は、来賓の渡辺新潟大学農学部同窓会長を含めて30名でした。S25年卒の山本さんからH26年卒の梶本さんまで、幅広い同窓生が集まりました。農業生産科学科H14年卒の八木幹事が司会進行しました。以下、概要を報告します。

1) 村上支部長の挨拶及び渡辺同窓会長からの農学部近況報告

- ①平成29年度から1学科制になり、入学定員が155名から175名に増員されたこと。1学科(農学科)の中に5つの主専攻プログラムを設けて専門的な教育を行って、具体的な解決策を提言できる人材を育成。
- ②日本(新潟大学・福島大学)とトルコの5大学が結集して、「経験・知恵と先端技術の融合による、防災を意識したレジリエント(復興能力のある)な農学人材養成」の開始。
- ③新潟大学・新潟県・新潟県酒造組合が連携協定を締結し、「日本酒学」の構築を目指す。新潟県醸造試験場との共同研究、インターンシップ、サテライト実習、経済学部

で「日本酒学」講義の立ち上げ、文理融合型の研究。「日本酒学」の構築を目指して、新潟県の産業振興と新潟清酒の魅力向上に貢献。

2) 総会議事

① 村上支部長から、平成28年度農学部同窓会首都圏支部活動報告がありました。

② 吉田幹事より、平成28年度新潟大学農学部同窓会首都圏支部第31期会計収支報告があり、西嶋幹事より会計監査を行い、正確且つ適正に処理されているとの報告があり、収支報告は総会で承認されました。概要：前年度繰越金 ¥366,886、＜収入＞年会費等の収入 ¥312,602、＜支出＞総会・懇親会費等の支出 ¥283,381、＜次期繰越金＞ ¥396,107。皆さんから、年会費を振り込んで頂きまして有難うございました。

③ 役員人事

奥澤康文幹事(林学科S52年卒)が幹事を続けられなくなり退任。

④ その他

昨年7月2日の新潟大学農学部同窓会常任幹事会で、「新潟大学農学部同窓会個人情報保護規程」を制定。総会で文書を配布して経過を報告。首都圏支部もこの規程に準拠して活動していく方針です。

3) 講演：

講師：山田 文雄氏(独)森林総合研究所 野生動物研究領域特任研究員・農学博士(林学科S50年卒)

演題：「放射能災害の6年 森林や野生動物への影響から考える」

<概要>

① 東日本大震災(2011.3.11)に伴う福島第一原子力発電所事故により放出された放射性物質は、陸地で多くの面積を占める森林(68%)に蓄積され、落葉層や土壌表層に沈着している。このため、森林生態系における放射性物質の動態や野生動物への影響把握のためにモニタリングが求められている。

② 地表や土壌中を生活空間とする小型哺乳類にとって、採食を通じた「内部被爆」、落葉層や土壌に沈着した放射性物質の「外部被爆」も起きて、小型哺乳類(ノネズミ等)は継続的なモニタリング対象として重要。

③ アカネズミを対象に、高線量地(原発から29 kmの福島県飯館村国有林)、中線量地(原発から27 kmの福島県川内村国有林)、低線量地(原発から70 kmの茨城県北茨城市国有林)で、個体を捕獲。体重を測定。毛皮、内臓、骨格筋に分けて、放射性セシウム濃度を測定。

④ 内部被爆線量の把握のためのネズミ体内の放射性セシウムの経年変化

i.アカネズミ体内平均濃度は、2016 年では高線量地では 15.5kBq/kg を示し、2012 年からの各年次の平均値(14.4-22.6kBq/kg)とほぼ同様な値を示す。

ii.中線量地で 8.4kBq/kg を示し、2011-2015 年の各年次平均値(4.8-7.1kBq/kg)とほぼ同様な数値。

iii.低線量地で 0.6kBq/kg を示し、初年度(2011 年)の平均値(1.6kBq/kg)の約半分の値を示したが、それ以降の各年次平均値(4.6-9.2kBq/kg)と同様な数値を示す。

⑤アカネズミの体内濃度の年次変化を見ると、高線量地と中線量地は年次毎に若干の変動は見られるが、増減に大きな変化はない。低線量地は、事故後2年目に大きく減少したが、その後はやや増加傾向。

⑥生息環境と体内への移行係数

i.生息環境として、リター層(落葉・落枝類及び動物の糞などデトリタスの堆積した層)や土壌層の放射性セシウム濃度を測定。

ii.高線量地では、測定開始の事故後3年目(2013 年)に最大値を示し、その後、低下安定。リター層 378-239kBq/kg 乾重(乾燥重量)、土壌層(0-5cm 深)72-47kBq/kg 乾重。

iii.中線量地では、事故後2年目(2012 年)に最大値を示し、その後低下安定し、リター層で 280-160kBq/kg 乾重、土壌層(0-5cm 深)28-12kBq/kg 乾重。

iv.低線量地では、初年度(2011 年)に最高値を示し、それ以降低下し、4年目から安定し、リター層で 21-8kBq/kg 乾重、土壌層(0-5cm 深)3-2kBq/kg 乾重。

v.アカネズミ成獣体内への放射性セシウムの移行状況は、事故後6年間の3地域で、リター層からアカネズミ体内への平均移行係数(標準誤差)は、 0.030 ± 0.005 - 0.072 ± 0.013 であり、土壌層からの平均移行係数(標準誤差)は、 0.33 ± 0.06 - 0.38 ± 0.06 の値であった。いずれも小幅な変動値であった。

⑦まとめ

事故後6年目の調査結果が幾つか得られたが、アカネズミにおいては、事故後6年経過後も、未だに放射性セシウム濃度が高い濃度で維持されている。継続調査によって、長期の変化を検討することやそのデータ解析が必要である。

※山田氏の講演で、放射性セシウムは事故後6年経過しても、土壌中には深く浸透せず、リター層や土壌表面に留まっていることがわかりました。福島の野生動物アカネズミ体内では、事故後6年経過しても、高濃度の放射性セシウムが滞留していることもわかりました。

4)記念撮影・懇親会

①来賓の方が都合により欠席されましたので、渡辺同窓会長、村上支部長他農学部同窓生のための記念撮影と懇親会になりました。久しぶりに参加をした方も多く、顔なじみも

いたので、皆さん楽しく話をされていました。岩野君夫さん(農芸化学科S42年卒)から「豊盃(1升瓶)」の寄贈があり、「新潟大学」の酒も2本用意して飲んで頂きました。

②初参加の加藤彦枝さん(農業工学科S56年卒)から自己紹介と近況を話して頂きました。農業工学科卒の方は、現場や地方に出ているなかなか集まってもらいづらかったのですが5名出席しました。世代的には、S50年代の卒業生が約半分で、S20—S40年代の卒業生は10名、平成10-20年代の卒業生は4名でした。

③S25年卒の山本さんから元気な秘訣や、H26年卒の楢本さんからは現在の仕事について話してもらいました。農学部が河渡にあった時代の卒業生と、五十嵐で育った卒業生では、年代のギャップも相当大きいんですが、ここ数年の総会で、次第にその垣根も低くなってきているのかな、と思います。お互い同士で気軽に話せるようになってきたかと思います。④歓談が続いた後、みんなで「四季の新潟」を合唱し、若桑さん(S35年卒)の中締めで会を終了しました。

⑤首都圏在住の同窓生の皆さん、1年に1回、農学部同窓生がこのように集まっていますので、気軽に参加をしてみませんか。予算が十分でないこと、首都圏の同窓生の住所把握が十分できていないことなどで、案内状をお送りしていない同窓生も多くいますので、同期や友人にも声をかけて出席をして下さいますようお願い致します。